

景観形成区域の取組進捗状況（久礼野）

1 景観形成区域に関する協議の場

久重地域連携協議会里山部会

(経緯) 7月の里山部会で協議の場合は連携協議会で決めることとなる
⇒9月の連携協議会で里山部会で協議を続けることに決定する

2 久重地域連携協議会、里山部会の概要

- (1) 久重地域連携協議会
- ・平成 27 年 12 月設立　・会員数：28 人（31 年 4 月現在）
 - ・部会：里山部会，教育部会，福祉部会
 - ・目的：地域内外の親睦及び交流を図りながら，地域の個性を活かした魅力ある地域づくりを目指すこと

- (2) 里山部会

- ・部員：20 人程度
- ・事業内容

事業	個別事業
生物多様性との共生	ホテル学習，ホテル／夜景マップづくり，里山歩きとホテルの夕べ in 久重等
里山ウォーク	里山歩き，山野草の探索，ナイトウォーキング，里山ウォッチ，星の観察等
有用植物の食づくり	野草食材のハイキング，有用植物の炊きだし訓練，有用植物の食づくり
景観作物の作付	休耕田を利用した景観作物，花道の整備
里山イベント	七草フェスタ，タケノコ掘り体験
荒廃対策	有害鳥獣対策

(活動の具体例)

＜第28回春の七草フェスタ＞

- ①趣旨：地域の食材を使って、里山のスローフードを楽しみ、地域内外との交流を図る。
こうちこどもファンドのチームの参画
- ②開催日：令和２年１月５日（日）１２：００～１５：３０ ③開催場所：久礼野の休耕田
- ④参加者：２０６人（うち地区外１３５人） ⑤参加費：１，０００円 ⑥主催：春の七草フェスタ実行委員会

イベントスタッフのみならず、こどもファンの「**natural チーム**」や地域の女性でなる「**クッキングガールズ**」など、地域の多くの人が準備や実行に関わる。スタッフたちは、「おもてなし」をしながらも、自らイベントを楽しむことをモットーにしている。(料理：ピザ、九宝茶、竹パン、焼き芋、ジビエなど)



3 コミュニティ計画

＜久重のまちづくり計画＞

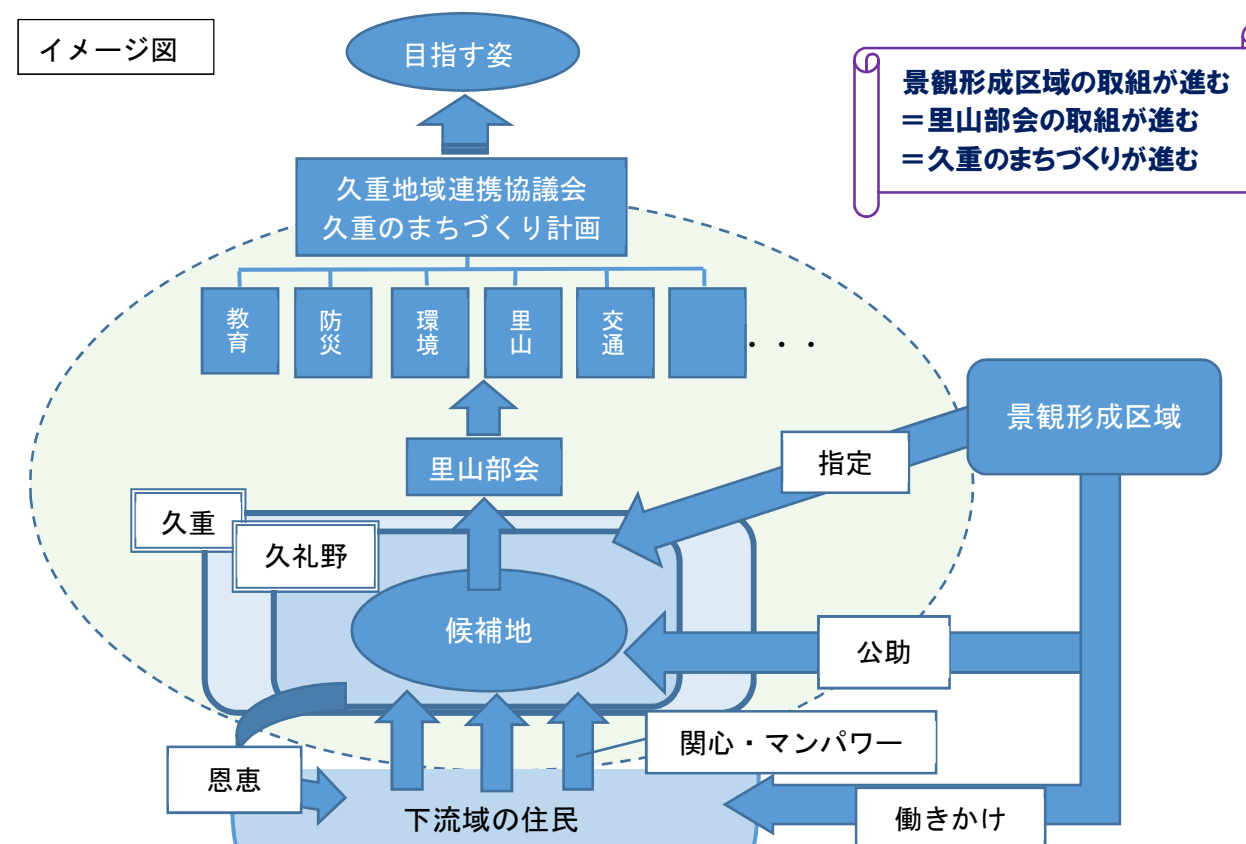
- ・平成 29 年策定
- ・計画の実施期間：平成 29 年～令和 3 年
- ・将来像：「豊かな里山 次代へつなげ！」
- ・基本目標：①安全に安心して住み続けられる里山
②地域の資源を活かして楽しむ里山
③笑顔が交わり笑顔が増える里山

行政の取組事業として、鏡川清流保全条例に基づく自然環境保全区域及び景観形成区域の指定について検討すると掲載されている。

4 里山部会での協議内容

- (1) 日時：令和元年11月25日（月） 18時30分から19時25分まで
- (2) 場所：久重小学校地域開放室
- (3) 出席者：里山部会会員8名、環境政策課2名
- (4) 協議目的：景観形成区域の取組が進むことで候補地のまちづくりが活性化し、そのことは里山部会の活動を後押しし、ひいては久重のまちづくりの向上につながるということを共通認識とする。
- (5) 参加者から出た意見等
 - ・ 今回の指定を逃したら、新たに別の場所を指定するには時間がかかってしまうのではないかと。久重地域のなかで指定の可能性があるところを全部洗いだしておきたい。
 - ・ 景観形成区域で行う取組内容は条例に盛り込むのか。
 - ・ 景観形成区域の指定を受けると、今の営みが制限されることになるのではないかと。
 - ・ 7月以降の市の動向を教えてください。
 - ・ 景観形成区域の取組の方向性は賛成である。

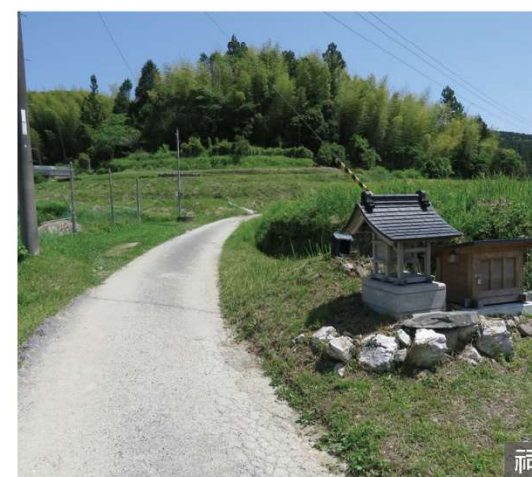
イメージ図



5 今後の目指す方向性

- 「景観形成区域の取組が進む＝久重のまちづくりが進む」ことを目指す。また、それが具体的にどのようなことなのかを住民と一緒に考える。
- 令和4年からの久重のまちづくり計画に景観形成区域の取組が盛り込まれることを目指す。
- 領域について協議し、必要があれば領域の見直しを行う。里山部会から他の領域の推薦があった場合は、候補地とするのか検討が必要。

29 久礼野地区 (2018.12.3 に行った地元キーパーソン 1 名へのヒアリング結果を踏まえて検討したもの)



【候補地の範囲】

○重倉川最上流部に位置する久礼野地区。緩やかな地形の谷あいによく手入れされた水田が広がっている。当候補地は、小高い山に囲まれ、ひとまとまりの景観として認識される集落の範囲を想定する。

【現状の評価】

- 集落北側の谷地は休耕地となっているものの、南の造成地から見渡せる範囲に目立った休耕地は見られず、美しい田園が広がっている。
- 未拡幅の道路沿いには手入れの行き届いた祠や一本杉などが残り、暮らしの文化が集落で大切にされている様子がうかがえる。
- 近年に改修されたと思われる農業用水路の護岸が空石積となっており、生物多様性への配慮も感じられる。
- 久礼野地区の主な活動団体として「里山保全会」がある。人と自然が共生した“里山の原風景”を将来世代に引き継いでいくため、人づくりに関する様々な活動が展開している。
- 上述の水路は、住民によって自主的に草刈りが行われるなどホタルの生息環境として保全され、初夏のホタル観察会に活用されている。
- 外部との交流も活発。地域活動には若い担い手や外国人の関わりもある。住民自ら楽しみつつ活動しており、地域づくりが軌道に乗った状態にあると思われる。

注) 平成 17 年度調査時の候補地は、重倉地区の水田を含め、「重倉地区の棚田」として想定されていた。しかし、重倉地区では県道沿いを中心に新興住宅が目立ち、農村らしさが感じられにくくなってきている。このため、まずは久礼野地区を対象とし、改めて候補地の検討を行った。



集落南の造成地から見渡した景観

写真は全て 2018.5.25 撮影